

第12回

住まいと

コミュニティ

づくり

活動助成



活動地域：東京都中央区・江東区

概要：

仕事をもつ親にとって子どもの病気は困った問題です。一般の保育施設では病気の子もはなかなか預かってもらえないからです。当団体はこの病児保育問題の解決策を模索してきました。具体策として、地域の医師、主婦、タクシー会社等多様な人々の協力・参加を得たネットワークによる支援システムを確立しました。助成対象活動では、地域に眠る人材（子育てのベテランや保育士資格者）を活用したスタッフ（「レスキュー隊」）研修を行い、持続可能なシステムの担い手を養成しました。また、さらにスタッフを確保する広報や利用者の募集・説明会で地域保育のPRを行い、2005年4月、東京の中央区と江東区で病児保育サービス「こどもレスキューネット」を開始しました。助成対象事業以外でも子育て中の母親を対象としたインターネット講座の開講や、子育て携帯ポータルサイトの開発を行うなど安心して子育てができる環境づくりに力を入れています。

〔特定非営利活動法人フローレンス〕

- ・ 代表者：駒崎 弘樹
- ・ 連絡担当者：藤條 尚美
- ・ 連絡先：〒141-0032 東京都品川区大崎2-12-1 綱島ビル3階
- ・ TEL：03-3493-2841
- ・ FAX：03-3490-1491
- ・ E-mail：tojo@florence.or.jp
- ・ ホームページ：http://www.florence.or.jp/

1 団体の目的と経緯

目的：

病児育児を通じた安心して子育てのできる地域の創造

経緯：

コアメンバーが病児保育システムを考案中に知り合った医師、病児保育施設長、主婦等と組織を立ち上げた。

私たちNPO法人フローレンスは、全国の共働き家庭を悩ませる「病児保育」問題を解決するために設立された。

病児保育とは、突発的に風邪を引いたり、熱を出した子どもたちを預かることである。子どもは幼い間、特に乳幼児期には一月に平均1～2回発熱をする。働く女性がますます増えている今日において、仕事と家庭・育児の両立は非常に重大な問題である。子どもの発熱や疾病の度に仕事を休み、職場で肩身の狭い思いをしている女性が多く存在する現状である。その結果、パートタイムへ勤務形態を変更したり、退職を余儀なくされる。

しかし、現在のわが国の保育園ではこのような子どもたちを預かり、保育するということは困難である。2003年の全国病児保育協議会の資料によると、既存の病児保育の可能な施設は全国保育園数の1.4%と極端に不足しており、なおかつ増加の傾向はない。既存の施設型病児保育事業は、そのほとんどが赤字経営を余儀なくされている。それ故、新しく始めようとする人材も増えないという悪循環に陥っている。

このような病児保育問題の解決のため当団体の代表理事である駒崎弘樹は、経済的自立が可能な新たな病児保育モデルを考案した。「こどもレスキューネット」である。これにより全国の病児保育問題を解決し、子育てと仕事を両立できる社会の実現をめざすのがフローレンスの使命である。

「こどもレスキューネット」は、あらかじめ地域に

ネットワークした元保育士や子育てのベテランであるシニアたち(レスキュー隊員)が自宅で病気のこどもを預かるものである。保育中は、電話によって地域の小児科医に医療的な相談や、サポートを適宜受けることができる。これであれば、施設の家賃・光熱費などの固定費が削減でき、経営が継続可能となる。この全国初のフローレンスの「こどもレスキューネット」により病児保育問題の解決をめざすものである。

1-1 過去の実績

2003年4月

レーサムリサーチ主催「世直し太郎コンテスト」優勝

2003年5月

東京都中央区「小坂こども元気！！クリニック」内病児保育所で代表・駒崎弘樹実習開始

2003年6月

東京財団平成15年度委託研究事業決定「病児保育問題と小児救急医療問題の同時解決を図る社会起業モデルの検証研究」～こどもを守るまちづくりモデル「フローレンス」

2003年9月

NHK「首都圏ネットワーク」にて活動紹介
日本財団から助成決定
NECのNPOインキュベーション事業「NPO起業塾」に選出

2003年12月

フジタ未来経営賞受賞(週刊「エコノミスト」に掲載)

2004年3月

シンポジウム「子育てにイノベーション」を開催

2004年4月

内閣府から特定非営利活動法人認証



病児保育のニーズについての調査結果



レスキュー隊員の研修の様子

2 活動の内容

2-1 レスキュー隊員研修会・実習

病児保育に携わるレスキュー隊員には、病児保育に関する専門知識を養っていただくために、計4回の研修会と実習1回に参加していただいている。既に第1期レスキュー隊員は研修を修了して実際の業務に携わっており、現在は第2期レスキュー隊員が研修を受けている。

第1回レスキュー隊研修

日時：2005年1月27日 9:00～12:00

場所：江東区富岡区民館

主催：NPO法人フローレンス

内容：

親御さんからの子どものお預かりシーンや、小児科医での対応シーン、子どものお引渡しシーンといった1日の流れに即した活動手順についてロールプレイ(役割演技)を通して体験学習した。皆さん他のレスキュー隊員の演技には拍手するなど、笑顔の絶えないとても良い雰囲気での研修を進める事ができた。

第2回レスキュー隊研修

日時：2005年2月7日 9:00～12:00

場所：江東区深川スポーツセンター

主催：NPO法人フローレンス

内容：

世田谷区「いなみ小児科付属病児保育室ハグルーム」主任保育士の蔵本由起子さんを講師としてお招きし、病児保育の現状やアドバイス、病児保育の1日の流れなどを実体験に即して教えていただく。レスキュー隊員が日頃から抱えている「私にもできるのだろうか。」といった病児保育への不安や、「こんなしつけはいいの？悪いの？」といった疑問点に、現場からの生の声でお答えいただけるので、病

児保育の実態への理解を深めることができる。また、プライベートでの育児相談といった話題にも上り、非常に密度の濃い研修内容となった。

第3回レスキュー隊研修

日時：2005年2月17日 9:30～15:30

場所：江東区富岡区民館

主催：NPO法人フローレンス

内容：

プロとしての病児保育レスキュー隊員となっただくために、子どもの病状が急変した場合および更には心肺停止といった命に関わる状況に陥った場合の危機管理について研修を行った。

前半は、ビデオでの病児の急変の症状についての対応について学んでいただきました。後半は、消防隊の方をお招きし、応急手当の実習としてダミー人形を使いながら心肺蘇生法と異物除去法を体験していただいた。見ているのとは行うのでは大きな違いで、最初は慣れない手つきだったレスキュー隊員も、最後には応急手当への抵抗もすっかり無くなっていった。

第4回レスキュー隊研修

日時：2005年2月28日 13:30～15:30

場所：江東区森下文化センター

主催：NPO法人フローレンス

内容：

NCMA保育者養成セミナーの講師をされている大村知子氏を講師としてお招きし、「接客ノウハウ(コミュニケーション演習)」についての研修をしていただいた。今回は、子どもを預ける親御さんとのコミュニケーションに重点を置いて講義していただいた。

レスキュー隊員への「どんな人と話しているとき安心を覚えますか？」という問いに始まり、レスキュー隊員が日ごろ気持ちいい、楽しいと感じている人とのコミュニケーションの例から、心地よいコミュニケーションのポイントとなる共通項を確認し



レスキュー隊員募集のチラシ



ポスティングの様子
マンションの管理人から断られることも・・・

ていった。レスキュー隊員も、自分の経験に即した形でコミュニケーションの大切さを実感していた。非常に実りのある研修であった。

2-2 レスキュー隊員募集折込みチラシ配布・ポスター掲載

レスキュー隊員募集は、募集説明会への案内という形でチラシを作成し、主に新聞への折込み、ポスティング、東京マイコープへの置きチラシという形で広報活動を行った。同じくポスターについても、東京マイコープに協力をいただき、掲載することができた。

その結果、第1回説明会に3人、第2回説明会に5人、第3回説明会に2人の方々が参加していた。

今後も、募集対象として考えているシニア層の方々への広報手段として、新聞への折込みチラシ・ポスティングおよびポスター掲載を中心に行っていきたい。

2-3 レスキュー隊員募集説明会（計3回）

当団体では、レスキュー隊員志望者に向けてこれまで計3回にわたって、レスキュー隊員募集説明会を開催した。

レスキュー隊員として働くことに興味がある方々に、当団体の病児保育事業「こどもレスキューネット」の仕組み、レスキュー隊員の役割および仕事内容などを深く理解していただいた上で、改めて参加していただければと考えている。

参加される皆様方は病児保育に対してはもちろんのこと、社会意識が高い方ばかりで、毎回とても刺激的で有意義な会となった。今後もレスキュー隊員募集情報を常に発信し、志望者が集まり次第、随時説明会を開催していきたい。

3 活動の成果

当初設定した本プロジェクトの達成目標は、2005年4月にサービスインを果たすことであったが、計画通り2005年4月1日に「こどもレスキューネット」サービスを開始することができた。

現時点までで実現できた成果としては、次の項目が挙げられる。

研修を修了したレスキュー隊員が12名登録している

12名全員が、新聞の折込みもしくはポスティングしたレスキュー隊員募集説明会のチラシを見て参加された方々である。説明会で「こどもレスキューネット」やレスキュー隊員の業務についての理解を深めた上で参加していただいている。当団体の使命や、本プロジェクトの目的（病児保育問題解決）に共感して下さる社会貢献欲や情熱溢れる方ばかりである。

保育サービス利用会員15名に既にご入会いただいている

3月28日に行った利用者向け説明会への参加を経て、ご入会いただいた。利用会員についてもレスキュー隊員同様、説明会を通してより深くサービス内容について理解していただき、納得していただいた方のみにご入会いただくようにしている。

当初設定した2005年4月のサービスインという目標は、計画通り達成できた。よって目標とそれの達成のための実行計画は適切であったと評価する。資金計画についても、当初設定した予算通りに割り当てることができた。

活動に必要な情報については、それまでの1年半にわたる病児保育の現状・市場調査の情報ストックもあり、困ることはなかった。新規モデルであるがゆえに、サービス利用料金の設定については前例がなかったため、8つの保育所の協力を仰いで保護者



利用者向け説明会の様子



子どもを見守るレスキュー隊員

への価格希望アンケート調査を実施し、情報収集に努めた。割り出した適正価格は2005年度のサービスイン後の財務計画に盛り込んだ。

推進体制としては、2005年に入り、マーケティングやITコンサルティングといった専門分野を持つ社会人にボランティアスタッフとして参加していただいたため広報力が飛躍的に高まった。また、学生のインターンシップも積極的に受け入れることにより手数が増えたため、サービスイン前の人手不足を解消できた。

4 今後の取り組み

レスキュー隊員増員の工夫

レスキュー隊は、当初予定していた現時点においての目標人数はクリアしているが、利用希望者の殺到を考えると、急募する必要がある。これまでのレスキュー隊募集活動の方法次第では、もっと多くのレスキュー隊員を集めることができたのではないかと反省している。

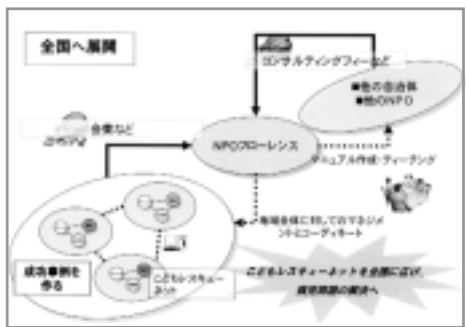
レスキュー隊員の担い手はシニア層を想定している。募集活動は主にチラシで行ったが、当初前面に押し出していた病児保育という言葉は一般の人々にとってイメージが湧きにくく、どうしても「難しそう、できない」といったネガティブなイメージばかりが頭の中で膨らんでしまう。

インターネットでも募集をかけたが、どうしてもインターネットを使う人たちが限られているため、大多数には届きにくかった。

そこで、今後必ず試したいと考えているのは、レスキュー隊員になるまでのプロセスを段階分けすることである。例えば、保育サポーターの講座を設け、その講座の一環で病児保育について知ってもらうことで興味を持っていただくといったことが考えられる。

こうした問題点を克服しつつ、サービスインと共に対応するのに困ってしまうほどにいただいた問い

合わせや説明会がキャンセル待ちになるほどの病児保育の必要性、重要性をしっかりと認識し、働く親御さんのため、第一は子どもたちのためにより充実したシステム作りへ努力していきたい。



子どもレスキューネットの全国展開イメージ



ユニフォーム姿のコアメンバーとレスキュー隊員